

## 炎症

炎症とは、例えば蜂に刺された場所が痛んで（疼痛）、赤く（発赤）腫れ上がり（腫脹）、その場所（臓器や組織）の働きが損なわれる状態です。通常、胃炎や肺炎などのように、炎症を起こした場所の名を「炎」の前に付けて病名とします。

### - 基準値表 -

項目	異常域(低)	境界域(低)	基準域	境界域(高)	異常域(高)
CRP(定性)			陰性		疑陽性 陽性
CRP(定量)			~ 0.30		0.31 ~

### CRP

炎症が起きるとその場所の細胞が壊れ、たんぱく質の分解産物であるCRP（C反応性蛋白）が血液中に増えます。怪我をした場合も細胞が壊れますので、同様にCRPが増えます。健康時には血液中にほとんど存在しないので、検出されれば体のどこかに炎症か怪我など、細胞が壊れる状態があることを示します。

炎症や怪我の程度に応じてCRPが増減し、治るとCRPも消えるので、炎症や怪我の重症度や治療効果の判定に大変役立ちます。炎症の有無を知るにはCRPが陽性か陰性かという定性試験を行いますが、炎症の程度を判定する場合はCRPの量を調べる定量試験を行います。

## 疑われる病気や異常

細胞が壊れるとCRPが増えるのですから、細胞の壊れ方が激しい病気ほど血中のCRP値が高くなります。

例えば慢性関節リウマチ、膠原病、結核の活動期、種々の細菌感染症や敗血症、がん、急性心筋梗塞、壊疽や怪我による組織の壊死や挫滅などです。

ウイルス性疾患や内分泌疾患では細胞の壊れ方が少ないのでCRPはあまり増えず、定性試験では陰性が弱陽性にとどまります。

また、動脈の内面を被っている内膜の細胞が動脈硬化のせいで壊れると、血液中に微量のCRPが流れ出てきます。通常の方法では検出できず特殊な方法で調べますが、これは高感度CRPと呼ばれます。